

研究結果報告書

所属 南京理工大学外国語学院
役職 准教授
氏名 趙 熠璋

研究結果

研究テーマ：近世日本漢方と中国伝統医学思想との比較研究

中国伝統医学（中医学）にルーツをもつ漢方医学は、生命現象と精神現象を探求する際に「心身関係論」を論理の出発点としている。これは、「天人一体」「心身一体」の視点に基づく身体観が漢方医学を含む東アジアの伝統医学哲学の理論的基盤であると言える。中医学は、体験的哲学的な思考方法を持つものであり、その身体概念には心、神、気、経絡などの抽象的な側面が含まれている。一方、近代西洋医学は、細胞、遺伝子などの具体的なもので人体を研究してきた。医学史上、西洋医学は心（精神）と身（物質）を分離し、身体は精神から切り離され、科学的な研究対象となった。これにより、近代医学、特に解剖学は倫理的および心理的な障壁を取り除くことができた。

しかしながら、中医学の「天人一体」「心身一体」という理論がどのように近代西洋医学と融合できるのかは近世日本漢方医学が直面する最大の課題といえる。近代以前は「心身一体」の自然哲学的医学が「心身二元」の近代科学的医学に進化することは、間違いなく進歩の一環であった。そして日本漢方医学は「心」と「身」を二元的な対立から解放し、「心身二元」を「心身一体」に統合する試みは、東方の伝統的医学の哲学にとって有益な試みであった。

東アジアの伝統医学の重要な一翼である日本漢方医学の近代化は、薬理学、病理学、治療方法の近代化だけでなく、さらに重要なのはその理論的基盤である自然哲学の近代化と科学化とされている。近代日本の漢方医学思想における心身関係論の変遷を考察することによって、漢方医学の哲学は東洋の自然哲学的な心身一体論認識を堅持しつつ、神経という概念を中心にして近代西洋の機械論的な身体観を統合し、伝統医学の臨床治療における倫理的な障壁を取り除き、また東西の医学知識体系の間に双方向の交流の橋を築くことで、漢方医学全体の近代化と科学化を加速させた。日本漢方医学の哲学は、東洋医学哲学と近代西洋の科学技術哲学が融合した比較的成功的な試みの一例と考えられる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

①

題名：江戸後期の漢方医学哲学における心身関係論の變遷

発表者：趙熠璋

会議名：浙江工商大学東方語言哲学学院、東アジア研究院、東アジア陽明研究院主催「心学的景深与视域」シンポジウム

日時：2020年11月24日

場所：杭州市・浙江工商大学

②

題名：中国哲学、内経医学及び日本漢方における「心身関係」と近代医学

発表者：趙熠璋

会議名：江蘇儒学学会2023年度大会

日時：2023年8月11日

場所：蘇州市・蘇州科技大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

題名：心身关系论在近代日本汉方医学哲学的中西汇通

発表者名：趙熠璋

掲載誌：北京日本学研究中心學術誌『日本学研究』第34号

掲載時期：2023年

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)